三加和町文化財調査報告　第９集

田中城跡

Ⅸ

１９９５

熊本県玉名郡

三加和町教育委員会

三加和町文化財調査報告　第９集

田中城跡

Ⅸ

１９９５

熊本県玉名郡

三加和町教育委員会

序

一昨年の長雨、昨年の異常渇水、そして本年１月に神戸地方を中心として起った「阪神・淡路大震災」と、このところ異常気象と思われることが続発しています。

このような中、田中城跡の調査も９年目を迎え、昨年、石龕・石切り場などが確認された地点の上の段の調査を行い、新たな発見を期待しましたが、残念ながらほとんどの遺構はブドウ畑を作る際に壊されていました。遺物も、以前耕作の際に鉄砲の玉が多数出土したと聞いていましたが、調査では１発しか出土せず、他にも土器の小片が僅かに出土しただけでした。

本年度は、このように残念な結果に終わってしまいましたが、調査を始めて10年目を迎える平成７年度は、地元で弾正屋敷跡と言い伝えられている場所の調査を行なう予定ですので、期待を持ちたいと思います。

本年度も、専門調査員の先生方をはじめ地元の方々にご協力いただきました。

ここに心から厚くお礼申し上げます。

平成７年３月３１日

三加和町教育長　坂梨　五十鈴

例　　言

1．本書は熊本県玉名郡三加和町が「田中城総合整備計画」の一環として、平成６年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．本調査は、国庫・県費補助事業として三加和町教育委員会が実施し、黒田裕司がその任にあたった。

3．遺物および遺構の実測・製図・写真撮影拓本は黒田が行った。

4．出土遺物は、三加和町教育委員会で保管している。

5．本書の執筆・編集は黒田が行った。

本 文 目 次

第Ⅰ章　序　説……1
　第1節　調査に至る経過……1
　第2節　調査組織……1
　第3節　調査経過……2
第Ⅱ章　調査の成果……5
　第1節　調査の概要……5
　第2節　遺構と遺物……6
　　(1)　遺構……6
　　(2)　遺物……6
　　(3)　平成5年度検出石切り場……6
第Ⅲ章　まとめ……9
　報告書抄録……10

挿 図 目 次

第1図　田中城跡全体図……3
第2図　調査区全体図……4
第3図　出土遺物実測図……5
第4図　平成5年度検出石切り場実測図……7

写 真 図 版 目 次

図版1　(1) 調査前状況（南より）　(2) 調査前状況（北東より）

図版2　(1) ブドウ畑検出状況（北東より）　(2) ブドウ畑検出状況（南西より）

図版3　(1) ブドウ畑発掘状況（北東より）　(2) ブドウ畑発掘状況（南西より）

第Ⅰ章　序　　説

第1節　調査に至る経過

一昨年の23列にもおよぶ柱列、昨年の石龕・石切り場と毎年、新たな発見が続いており西側に広がる平場は、様々な遺構が眠っているのではないかとの期待を抱かせてきた。ここ数年調査を行っている地区は『辺春・和仁仕寄陣取図』によっても、特に重要な地区になるのではないかと思われるところである。今年度の調査区も地権者が以前ブドウ畑として耕作していたそうだが、その際数十発の鉄砲玉が出土したということであったので、何か重要な遺構が眠っている可能性が強いと判断して、調査を行うこととした。

第2節　調査組織

調査主体　三加和町教育委員会
調査責任者　坂梨五十鈴（教育長）
調査事務　小山　暁（社会教育課課長）
　　荒木　和富（社会教育主事）
調　査　員　黒田　裕司（社会教育課主事）
専門調査委員　岡田　茂弘（国立歴史民俗博物館教授）
　　大三輪龍彦（鶴見大学教授）
　　田邊　哲夫（玉名歴史博物館館長）
　　北野　　隆（熊本大学工学部教授）
　　阿蘇品保夫（熊本県教育審議員）
　　大田　幸博（熊本県文化課参事）
発掘作業員　髙　浅代・髙　邦代・髙　サカエ・福原　房子・福原スミ子・辺原　絹代・高木ツヤコ
発掘協力者　石井　　進（東京大学名誉教授・国立歴史民俗博物館館長）・工藤　敬一（熊本大学文学部長）・中村幸史郎（山鹿市立博物館副館長）・坂本重義（南関町教育委員会）・五嶋　竜山（鹿山焼竜山窯）・吉永　武福（地権者）

第３節　調査経過

４月18日　平成６年度の発掘調査を開始予定だったが、雨のため明日からに延期。

４月19日　作業の段取りを考え、全体を四分割して調査を開始。

４月28日　雨の降る日が多く、なかなか作業が進まなかったが、ようやく天気も安定し続けて作業が出来るようになった。しかし、明日からは連休。

５月10日　鹿本地区郷土史研究会視察。（１３名）

５月12日　地権者がブドウを植えた痕が確認される。

５月16日　城に伴う遺構は全く確認できないため、遺物を採集する目的でブドウを植えた痕（幅約４ｍ、長さ約10ｍ）を掘ってみる。

６月１日　遺物もほとんど出土しなかったため埋め戻して、Ⅱ区の表土剥ぎを始める。

６月３日　ブドウを植えた痕を２条確認。

６月７日　鉄砲玉１個出土。

Ⅱ区もブドウを植えた痕とその支えと思われる柱穴しか確認できず、遺物採集のために掘ってみる。

梅雨入り。

６月15日　昨日まで雨が降り続き、ようやくブドウを植えた痕を掘り始める。弥生～中世にかけての遺物が混ざっている。

６月16日　玉名市文化財保護委員視察。（１０名）

６月22日　２本目のブドウを植えた痕を掘りだす。やはり、遺物が混ざっている。

７月５日　Ⅲ区の表土剥ぎにかかる。

７月13日　伊藤正義文化庁文化財調査官・藤木久志立教大学教授・村上豊喜熊本県文化課文化係長視察。

７月21日　他の区と同様、遺構は全く確認できない。

８月３日　最後の区の表土剥ぎにかかる。

８月25日　やはり遺構は確認できず、城関係の遺構は今年度は全く確認できなかった。

９月12日　都城市歴史公園整備計画策定プロジェクト視察。（９名）

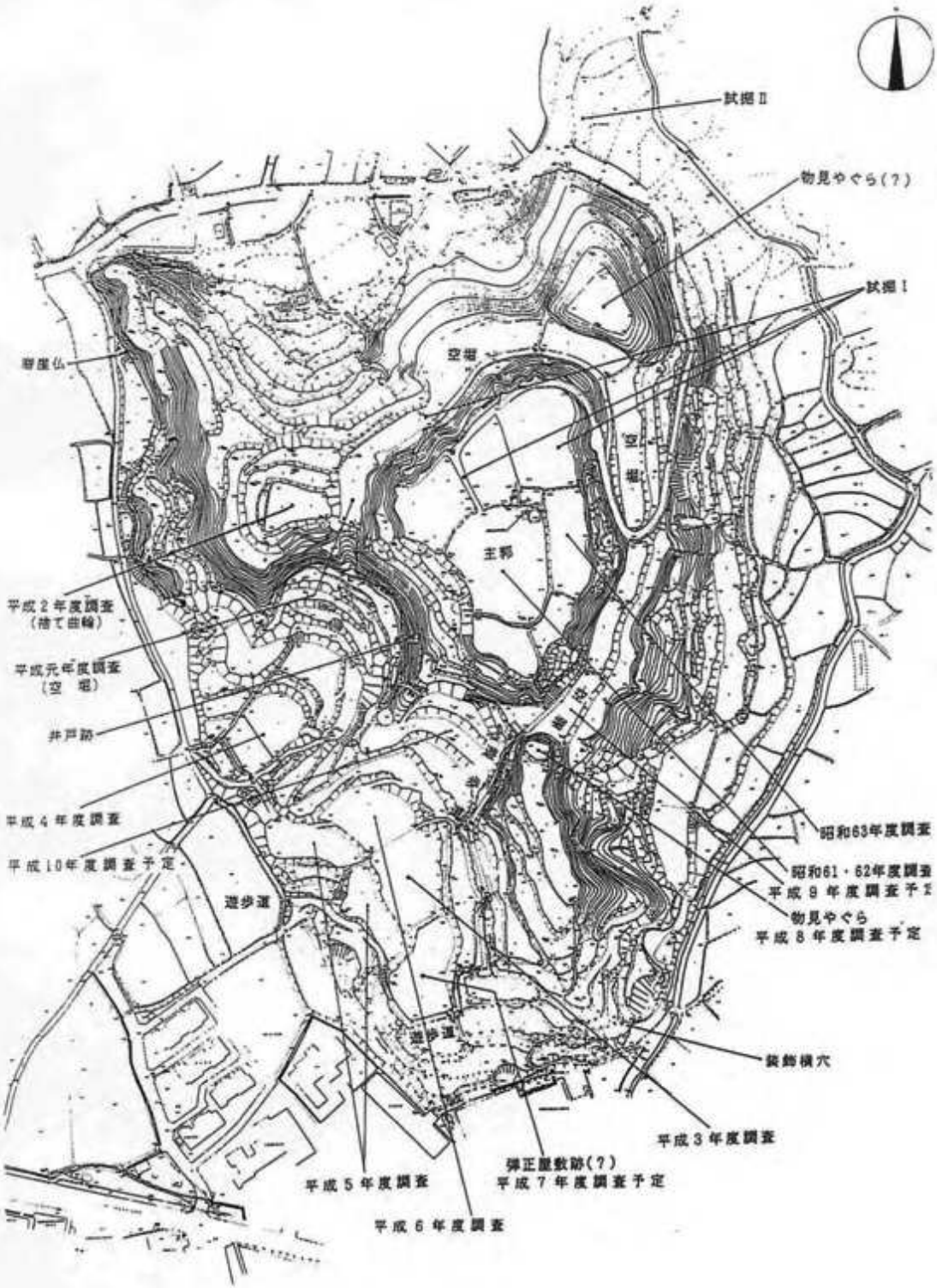
９月22日　作業終了。

11月29日　相良村教育委員・文化財保護委員視察。（８名）

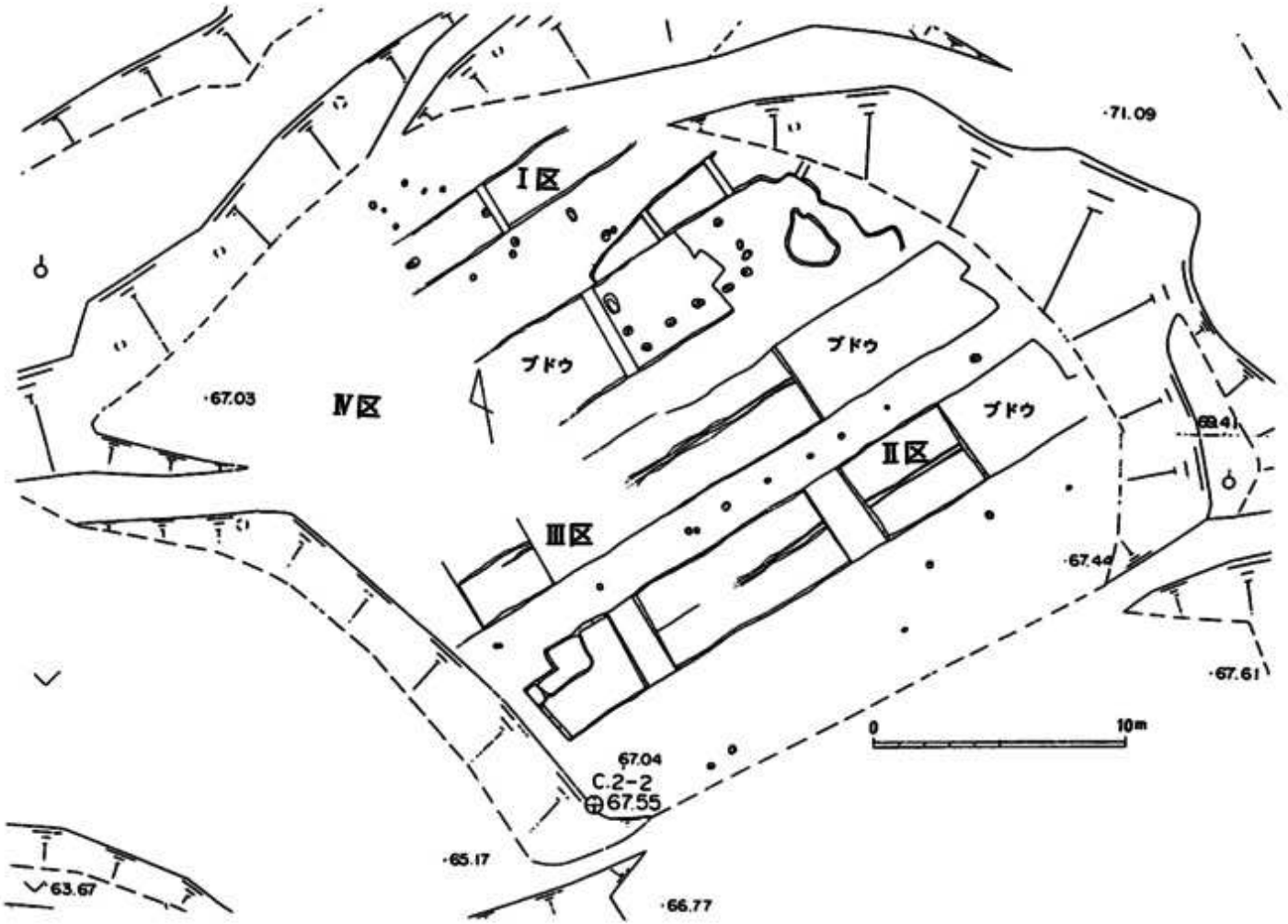
平成７年

３月22日　牛深市郷土史教養セミナー学級生見学。（１９名）

３月25日　永原慶二一橋大学名誉教授・田邉哲夫玉名歴史博物館館長・西田道世同副館長視察。


試掘Ⅱ
物見やぐら(?)
試掘Ⅰ
空堀
空堀
主郭
平成2年度調査
(搦て曲輪)
平成元年度調査
(空　堀)
井戸跡
平成4年度調査
平成10年度調査予定
遊歩道
遊歩道
昭和63年度調査
昭和61・62年度調査
平成9年度調査予定
物見やぐら
平成8年度調査予定
装飾横穴
平成3年度調査
弾正屋敷跡(?)
平成7年度調査予定
平成5年度調査
平成6年度調査

第1図　田中城跡全体図


I区
II区
III区
IV区
ブドウ
ブドウ
ブドウ
71.09
67.03
68.41
67.44
67.61
67.04
C.2-2
67.55
65.17
63.67
66.77
0
10m

第2図　調査区全体図

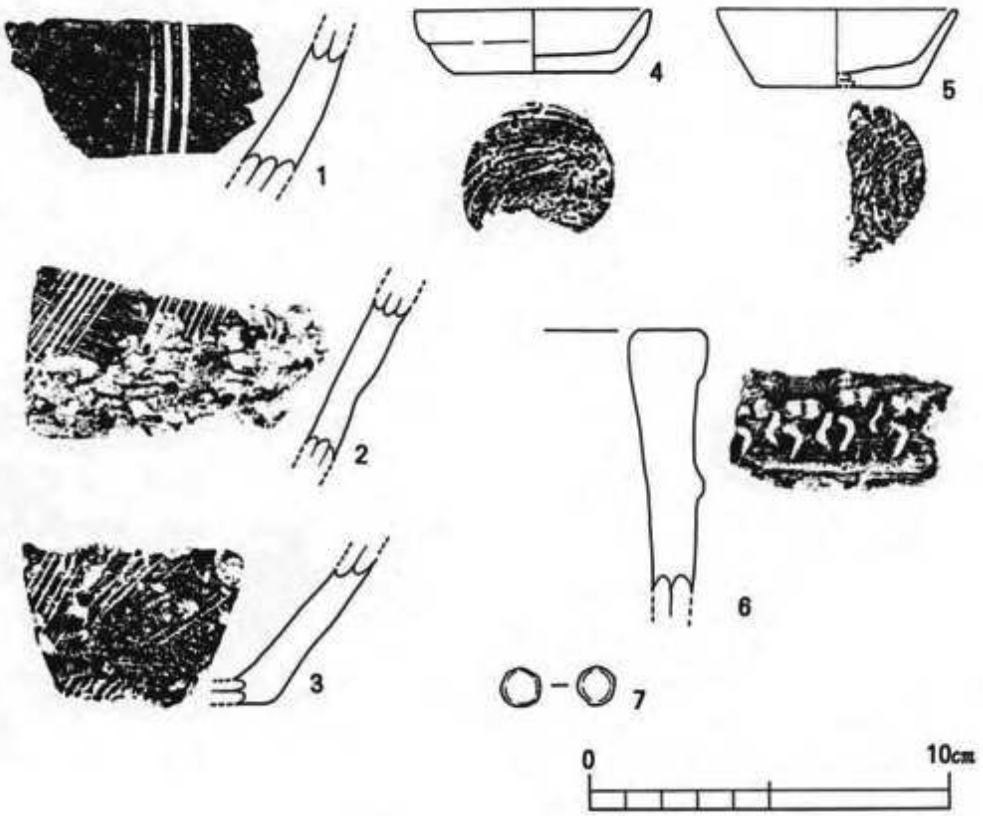
第Ⅱ章　調査の成果

第１節　調査の概要

作業の段取りを考え、調査区を四分割して東北部→南東部→南西部→北西部の順で調査を行い、他の部分を排土場とした。

今回の調査区は、地権者が以前ブドウを作っていたため、かなり壊されている可能性はあったが、耕作時に数十発の鉛製鉄砲玉が出土したと聞いていたため、取り残しがあるのではなかろうかとの判断のもと調査を行った。

しかし、確認できたのはブドウを植えるための幅４ｍ、長さ約15～25ｍ、深さ約１ｍの溝状のものが３条とブドウの蔓を支えるために立てられた竹の痕跡だけであった。溝状の遺構には遺物が含まれている可能性も考えられたので掘ってみたが、ほとんど見られず、城関係の遺構は、ほとんど破壊されてしまっていると考えても良さそうである。



第３図　出土遺物実測図

第2節　遺構と遺物

(1) 遺　構（第2図）

前述したように、以前ブドウ畑として利用されていたため、城関係の遺構はほとんど破壊されていて、若干の柱穴が確認できただけであった。

(2) 遺　物（第3図）

1～3は、いずれも瓦質のすり鉢で内・外面とも灰色もしくは灰白色で、胎土・焼成とも良好である。1は胴部で4本の条線が、2も胴部で7～8条の条線が残っている。3は底部から胴部にかけての部分であり、5条程の条線が残る。境部分はよく使用されていて摩滅が激しく、磨り減っている。

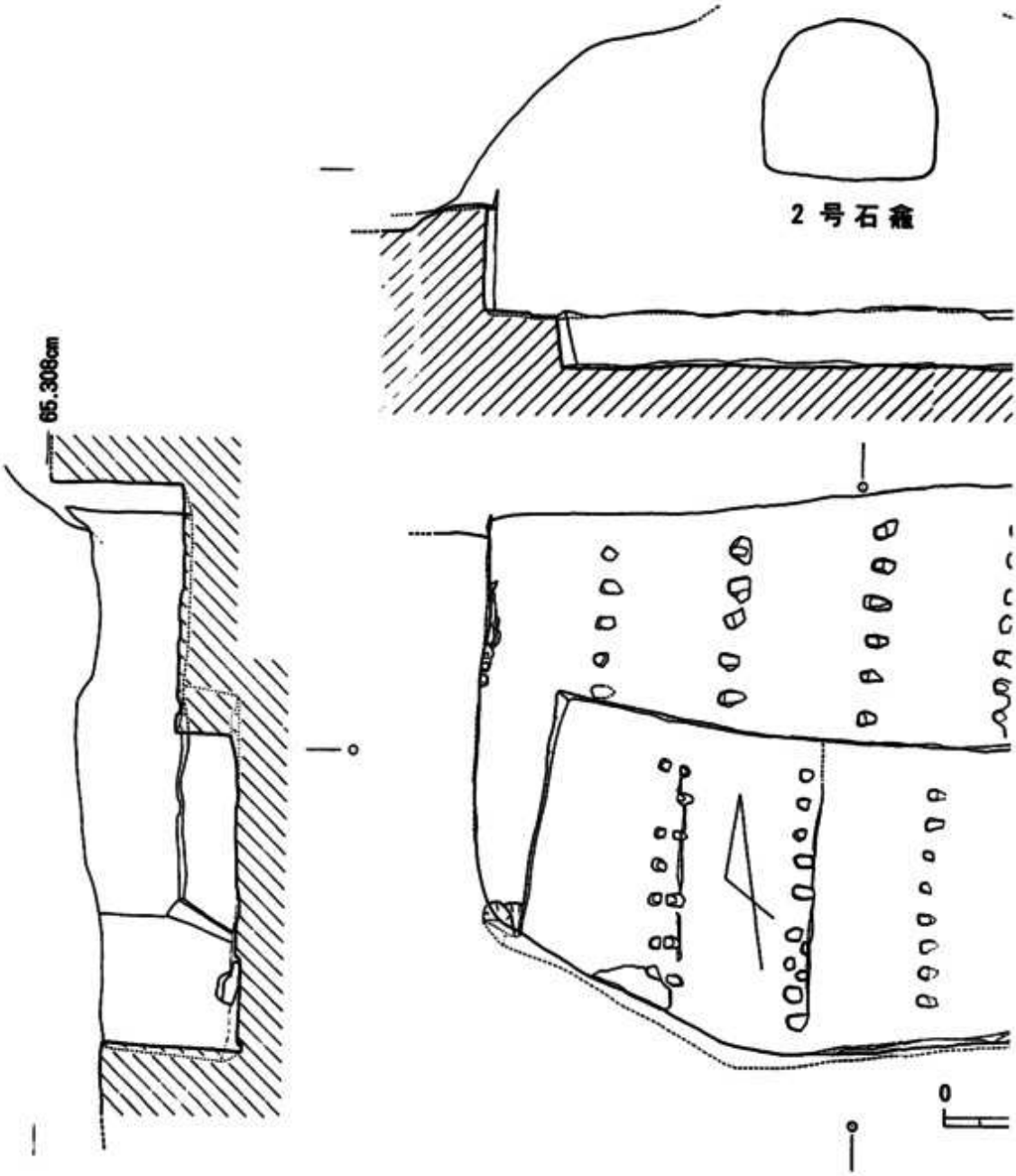
4・5は土師器の皿。4は口径6.4cm、底径4.4cm、器高1.8cmでほぼ完形品。内・外面とも赤味を帯びた肌色で、雲母の小粒を多量に含む。底部から丸味を帯びて立上がり、底部は糸切底。5は約半分を残し、推定口径6.6cm、底径4.6cm、器高2.2cmと4よりやや大きめの皿である。内・外面とも肌色で、雲母の小粒を多量に含む。底部から直線的に立上がっている。底部は糸切底。

6は瓦質の火舎の口縁部で、外面は灰褐色・内面はにごった灰色を呈す。口縁部下には𝔐のスタンプが押されている。

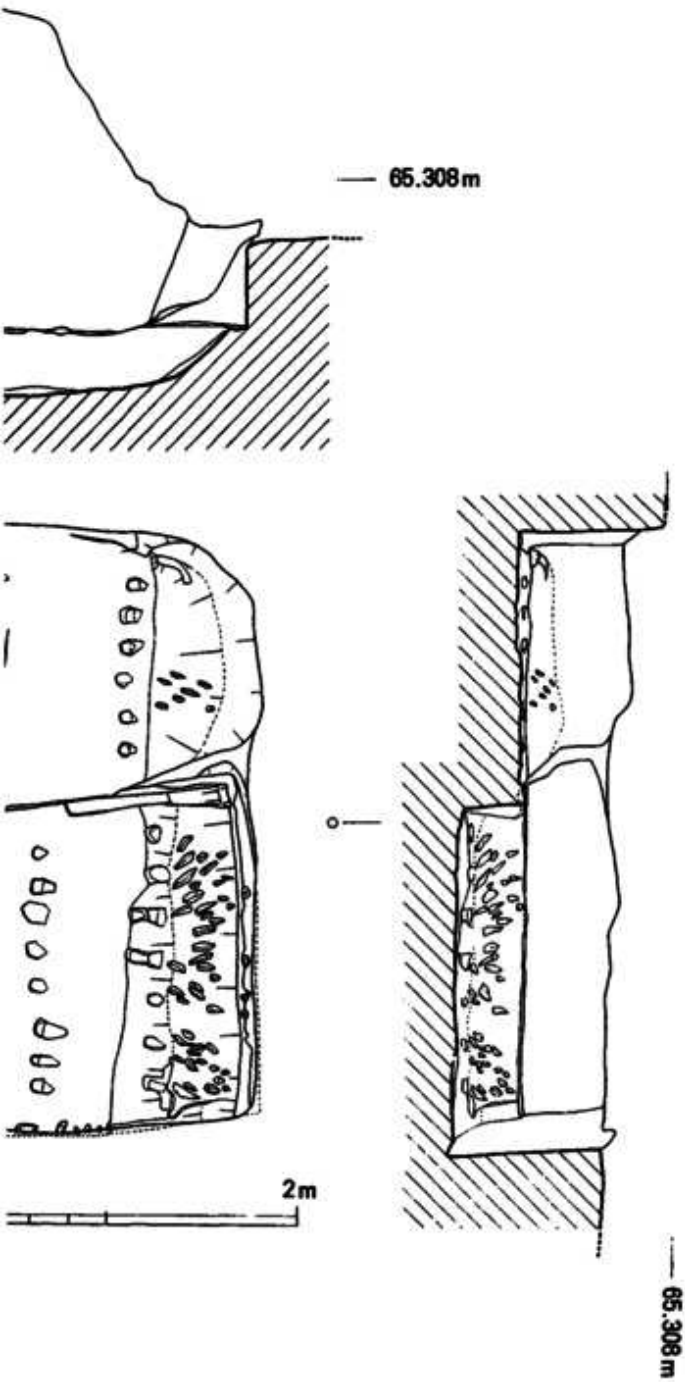
7は鉛製の鉄砲玉。径1.0～1.1cm、重さ5.70g。

(3) 平成5年度検出石切り場（第4図）

昨年度の調査で確認された遺構であるが、図面が不備だったためここに改めて掲載しなおした。寸法については、前号と重複するが記しておく。東西（長辺）3.51m×南北（短辺）3.34mのほぼ長方形、底面は二段に分かれており、一段目は56～60cm、二段目は73～93cmである。一・二段目とも5列で、一段目は5～7個、二段目は7～9個のクサビ痕が残る。切り出した石は、幅約70cm、厚さ約30～50数cm、長さは上段でははっきりしないが下段で約1.6～1.8mの大きさで、2～3回切り出していると思われる。



第4図　平成5年度検出石切り場実測図



7~8

第Ⅲ章　ま　と　め

田中城の地形を観察してみると、西側についてだけは平場が他の部分に比べて広い箇所が多く、何らかの施設が設けられていたであろうということは容易に推測できる。そのため『辺春・和仁仕寄陣取図』に基づき、平成３年度からこの西側区域に調査区を絞って調査を行ってきている。昨年度までで豊臣軍のものではないかと思われる５列の柵列、和仁側の兵舎跡ではないかと思われる連棟式の建物跡、宗教的施設である石龕および石切り場などが確認されている。このように、ここ数年、いろいろな遺構が検出されることで田中城の西側斜面に対する関心が高まりつつあるが、今年度ばかりは城に伴うと思われる遺構はほとんど確認できなかった。地権者が以前ブドウ畑として使用していたということで、遺構が存在していたとしても、かなり傷んでいると考えて調査を開始したが、これほど完全に破壊されているとは想像もしなかった。それでも、耕作時に鉄砲玉が数十発出たとのことだったので遺物には期待を持ちながら調査を進めてきたが、こちらの方でも期待を裏切られてしまい、弥生～中世にかけての土器・磁器類が若干出土したにすぎなかった。

今後もしばらくは、この西側一帯を中心にして調査を進めていく予定だが、何か新しい遺構が確認できるものと期待は持ちつつも、今年度のような結果もあるだけに多少の心配も出てきている。しかし、来年度で田中城跡の発掘調査も10年目を迎え、伝弾正屋敷跡の調査を予定している。伝承ではあるが、地元では和仁三兄弟のひとりである弾正親範の屋敷跡であると言い伝えられてきているだけに、成果にはかなりの期待が寄せられそうで、その期待に答えられるかどうか、大変な一年になりそうである。『辺春・和仁仕寄陣取図』の調査も、まだ確実に終わっている訳ではなく、この調査も並行して行い、それと発掘調査の成果を充分に検討して今後の対応を考えていく必要があろう。

また、予定の調査期間のまだ半分を迎えようとしている段階であるため、田中城の全体像については述べられないかもしれないが、再来年度には10年間の調査成果をまとめる予定でいるので、いままでの報告書で書き足らなかった分も報告できるのではなかろうか。

報告書抄録

ふりがな	たなかじょうあと
書名	田中城跡Ⅸ
副書名	
巻次	
シリーズ名	三加和町文化財調査報告書
シリーズ番号	第9集
編著者名	黒田裕司
編集機関	三加和町教育委員会
所在地	〒861 09 熊本県玉名郡三加和町大字板楠7 6 TEL 0968-34-3111 内線55
発行年月日	西暦 1995年3月31日

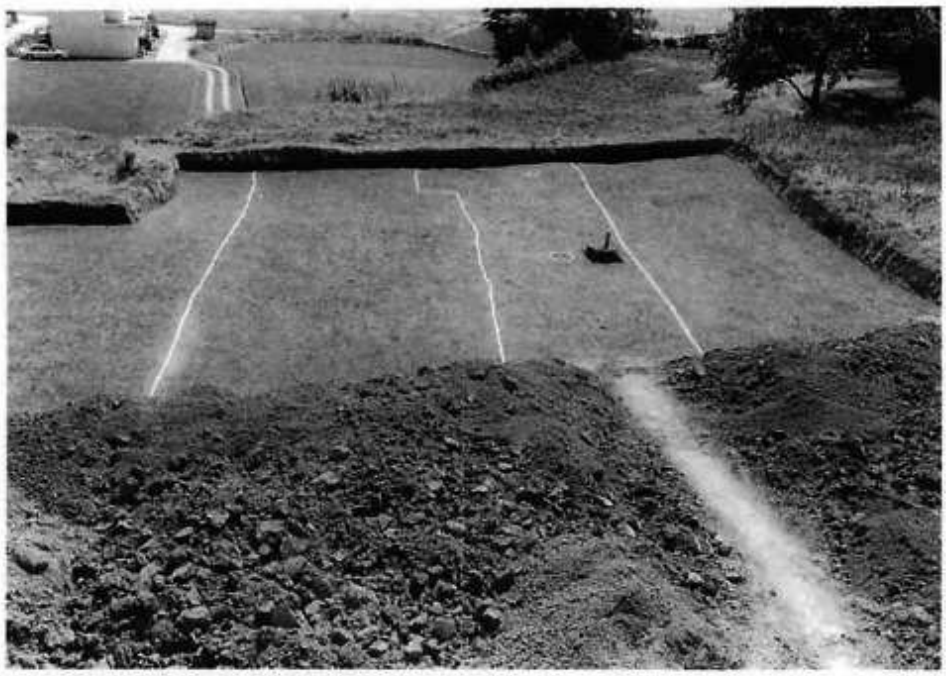
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ℃	東経 ℃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たなかじょうあと 田中城跡	くまもとけんたまなぐん 熊本県玉名郡 みかわまちおおあざ 三加和町大字 わにあざふるしろ 和仁字古城	43366		33度 4分 31秒	130度 35分 53秒	19940418 ～ 19940922	676	範囲および遺構の確認

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
田中城跡	城館	戦国時代 末期	若干の柱穴	土師器・須恵器 磁器・鉄砲玉	ブドウ畑として使用されていたため、遺構はほとんど消滅

(1) 調査前状況（南より）

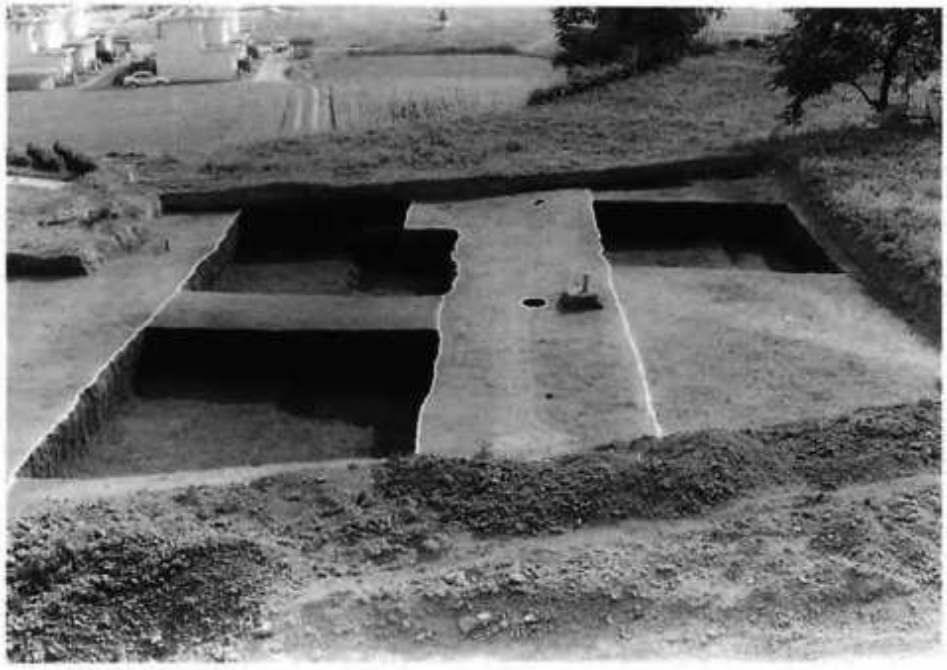
(2) 調査前状況（北東より）

図版 2



(1) ブドウ畑検出状況（北東より）

(2) ブドウ畑検出状況（南西より）



(1) ブドウ畑発掘状況（北東より）

(2) ブドウ畑発掘状況（南西より）

三加和町文化財調査報告書　第9集

田　中　城　跡　Ⅸ

1995年3月31日

発　行　三加和町教育委員会
〒861-09
熊本県玉名郡三加和町板楠76

印　刷　熊本県印刷センター
〒862　熊本市鹿帰瀬町496-1

この電子書籍は、三加和町教育委員会が発行した『三加和町文化財調査報告 第 9 集 田中城跡 第 9 巻』を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

菊水町と三加和町は、西暦 2006 年に合併して和水町となりました。調査記録及び出土遺物は、和水町教育委員会が保管しています。

書名：三加和町文化財調査報告 第 9 集 田中城跡 第 9 巻
発行：和水町教育委員会
〒861-0913　熊本県玉名郡和水町板楠 76 番地
TEL　0968-34-3047
電子書籍製作日：2024 年 2 月 28 日